

京都ジュニアカップ適用ルール（男子）

1. 大会クラスを5級から10級に分類し、選手一人につき1つのクラスにエントリーできるものとする。
2. 全クラス、年齢制限は無しとする。
3. 6級の表彰に関しては、年齢・参加人数に応じて2部門に分ける可能性がある。
但し、開催年によって参加人数に変動があるため参加エントリー終了後、年齢区分を検討し、抽選会後に発表するものとする。（例：4年生以下、5年生以上）

<5級・6級採点詳細>

【全種目】	技 点	4. 8	【加 点】	・ 綺麗な演技
	実 施	4. 5		・ 卓越した演技
	加 点	0. 7		・ リズム感・安定感
	合 計	10. 00		・ 姿勢・完成度 など

5 級

ゆ か <対角線の往復で演技を行う>

1 コース（配点 1. 0）

助走～側転2回連続（各0. 5）

2 コース（配点 3. 0）

倒立前転～前転左右開脚座胸つけ－両足を後ろで揃えて正面支持－腰を上げ両足立ち
（0. 5）（0. 5）

－ツーステップ～リープジャンプ－足を揃えてから後転－正面水平（2秒静止）
（0. 5） （0. 5） （0. 5） （0. 5）

3 コース（配点 0. 8）

助走～ロンダートジャンプ もしくは 転回
（0. 8）

跳び箱 <横向き5段> 3助走2演技

開脚跳び（4. 8）

鉄 棒 <高さ マット上200cm>

（配点 4. 8）

懸垂逆上がり～前方支持回転～後方支持回転～足裏支持回転降り
（1. 2） （1. 2） （1. 2） （1. 2）

※ 補助可 <但し減点有り>

6級

<ゆか・鉄棒の同一難度の繰り返しは2回まで認めるものとする。

A 難度のみ（難度表にない技にも A の価値を与える）で構成>

ゆ か

◎A 難度6技で構成 1技につき0.6

$$0.6 \times 6 \quad (\text{配点 } 3.6)$$

◎要求 0.3 × 4 (配点 1.2)

1. 前方系 2.後方系 3.柔軟 4.倒立
(1・2に関して、前転・後転でも補える)

◎演技時間 70秒

あん馬

◎円馬 6周

$$0.8 \times 6\text{周} = 4.8$$

跳馬 <高さ100cm 中型跳び箱縦>

◎3助走2演技 点数の良い方を決定点とする。

◎跳躍技は下記から選択

台上前転 3.5 開脚・閉脚跳び 3.8 転回とび 4.8

鉄棒 <高さ マット上200cm>

◎A 難度6技で構成 1技につき0.6

$$0.6 \times 6 \quad (\text{配点 } 3.6)$$

◎要求 0.3 × 4 (配点 1.2)

1. 前方系 2.後方系 3.鉄棒に近い技 4.終末技
(1・2に関して、前方・後方支持回転でも補える)

7級 府民総体採点規則

8級 近畿ジュニアCクラス規則

9級 近畿ジュニアBクラス規則

10級 近畿ジュニアAクラス規則

このルールは2024年4月1日から適用し、京都ジュニアカップの主催する大会のみ適用とする。

京都ジュニアカップ適用ルール（女子）

- 1, 大会の級を5級から10級にわけ、選手はこのうちの1つのクラスにエントリーできる。
- 2, 級は年齢に関与せず参加できる。
- 3, 6級の表彰については年齢、参加者数に応じて2部門に分けることがある。
開催年によって参加者数に変動があるためエントリー終了後、年齢の区切り方を検討し、抽選会後に発表する。
(例 4年生以下、5年生以上)
- 4, 各級のルール及び出場の日安は下記の通りとする。

5 級

段違い平行棒・平均台・ゆかの同一技は2回まで承認する。
 難度表にないものはすべてA難度とみる。
 構成はA難度のみとし、宙返りは禁止とする。
 20cm着地マット使用可。(ゆかは不可)
 採点は10.00から行う。(実施減点・要求減点)

跳び箱 中型 4段から6段	2回の跳躍を実施し、よい方のスコアを有効点とする。		減点項目
	転回	横向き	落下 0.5
	倒立前転	縦向き	姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで
	台上前転	縦向き	大きさ 0.1 / 0.2 / 0.3
	開脚跳び	横向き	スピード 0.1 / 0.2 / 0.3
段違い 平行棒	低棒のみ使用		減点項目
要求 各0.3 × 5個	逆上がり		落下 0.5
	後ろ回り		姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで
	前回り		大きさ 0.1 / 0.2 / 0.3
	フット下り		
	2つの異なる連続技		
平均台 高さ 110cm	演技時間1分以内・台下に20cmマットを使用可		減点項目
要求 各0.3 × 5個	バランス		落下 0.5
	前転		姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで
	180度ターン(片足)		流れ(全体) 0.1 / 0.2 / 0.3
	ジャンプ(抱え込み・伸身)		タイム 0.1
	終末技(ロンダート・転回)		
ゆか 方向あり	演技時間1分以内 曲あり・なしどちらでも可		減点項目
要求 各0.3 × 5個	360度ジャンプターン		転倒 0.5
	側転		姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで
	倒立前転		流れ(全体) 0.1 / 0.2 / 0.3
	ブリッチ技		タイム 0.1
	アクロバット技(他と兼ねてもよい)		

6 級

段違い平行棒、平均台、ゆかの同一技は2回まで承認する。
 構成はA難度のみとする。
 その他については2022年版採点規則(変更II)に準ずる。
 平均台・ゆかについて、変更IIで認められている要素はCRとして認められる。

中型 跳び箱	高さ 100cm (横)	段違い平行棒	器具：高さ 高棒255cm 低棒175cm
	(1) 2回の跳躍を実施し、よい方のスコアを有効点とする (2) 2.00ポイントまでの跳躍技に限る (3) 難度表にない技については次の通りとする		(1) 難度点 終末技を含む5要素以上、最大8要素まで数える (2) CR 全ての選手に2.00を与える (3) 短い演技 4要素以下の場合のEスコアの最高点 4要素：6.00 3要素：5.00 2要素：4.00 1要素：3.00 (4) 逆上がり・フット下りは1要素として認める
	跳躍技	Dスコア	Eスコア
	台上前転	1.00	5.00からの減点
平均台	器具：高さ 125cm 台下に20cmマットを使用 20cm・10cm着地マットを使用可(2枚重ね可)	ゆか	
	(1) 演技時間 1分30秒以内 (2) 難度点 終末技を含む5要素以上、最大8要素まで数える (3) CR 難度表にある要素には0.5 難度表にない要素には0.3を与える ① 難度表にあるリープ・ジャンプ・ポップの要素を1つ(伸身・かかこみ可) ② 片足上のターン(180度以上) ③ 前方/側方のアクロバット系要素(前転可) ④ 後方のアクロバット系要素(後転可)		(1) 演技時間 1分30秒以内 (2) 難度点 終末技を含む5要素以上、最大8要素まで数える (3) CR ① 前後/左右開脚または開脚屈身姿勢を伴う跳躍技 ② 片足上のターン(360度以上) ③ 前方/側方のアクロバット要素(前方倒立回転・側転可) ④ 後方のアクロバット要素(後方倒立回転可)

7 級

府民総体規則(小学生普及クラスルール)を適用する。

8 級

近畿ジュニアCクラス規則(近畿変更規則)を適用する。 近畿JrCクラスレベル

9 級

日本体操協会2022年版採点規則(変更規則II)を適用する。 近畿JrBクラスレベル

10 級

日本体操協会2022年版採点規則(変更規則I)を適用する。 近畿JrAクラスレベル